

石川県（能登・南加賀）の中世前期の輸入陶磁器

熊谷 葉月（公益財団法人石川県埋蔵文化財センター）

はじめに

石川県内で、中世前期の土器・陶磁器の研究は1960年代から始められているが、輸入陶磁器については量的が圧倒的に少ないため、土師器や国産陶器の分類・編年に付随的に扱われてきた。集成としては1992年、1997年、2007年の北陸中世考古学研究会の集成が大きなものである。

筆者には、他地域の報告のような詳細な統計・分析が不可能なため、非常に雑駁になるが、近年の調査によって増加した資料を加えて、従来の研究によって示された様相に変化があるかを見てみることを試みた。今回は、能登（宝達志水町以北）と南加賀（白山市以南）を対象としている。

能登

11世紀～13世紀の輸入陶磁器資料は、白磁・青磁などが出土する遺跡は、今回確認した報告書掲載例は、20遺跡以上であった。調査件数の増加に伴い、確認例も増加しているものの、北加賀・南加賀などに比べ非常に少ない。出土量も数点と少なく、遺構に伴わず、包含層出土の例が多く、傾向としてもとらえにくい。能登国分寺・国府周辺や莊園関連、領主屋敷地、寺院・神社など宗教関連施設などが目立つようである。

ただし、南加賀、北加賀などを含め、他地域でも見られるように、白磁碗Ⅱ類、Ⅳ類が11世紀代にいくつか見られ始め、12世紀に入ると白磁碗Ⅳ類が急激に増加し、Ⅴ・Ⅵ類も見られるようになる。その後、青磁碗へとその主流が移っていく様相は同じようである。

南加賀

白山市以南は陶磁器が出土する遺跡数が非常に多いため、研究集会での報告は、土師器皿などの共伴遺物から年代推定が可能な遺構のある21遺跡を取り上げた。遺跡の分布を見てみると、白山市松任平野周辺の莊園管理に関わるもの、小松市の国府周辺の関連遺跡、加賀市の城館跡など、大きく3つのまとまりが見られた。とりわけ、白山市については、北陸新幹線関連の調査により、資料の増加が非常に目立ち、中世前期の莊園と管理者である地元領主層の存在を際立たせている。

研究集会後、他地域報告の例にならい、太宰府編年を基に、宮保館跡・宮保B遺跡（2014報告分）の未実測を含めた白磁・青磁類304点について、集計したところ、以下の結果になった。

白磁碗									白磁皿									白磁		
II	IV	V	VI	VII	V.VIII	IX	不	邵	II	III	IV	V	VI	VII	IX	不明	邵	その他		
5	15	7	6	3	4	6	17	2	0	1	0	0	0	2	4	7	7	6		

青磁碗								青磁皿						青磁		
同	I	I II	II	II III	III	IV	不明	同	I	II	III	不明	その他	青白磁		
13	64	6	51	4	12	2	14	14	4	0	1	6	3	18		

※不（分類不明） 邵（邵武窯） 同（同安窯） その他（碗皿以外の器種）

まとめ

共伴する土師器椀・皿類、陶器の大型品（貯蔵具）と関係において 北陸中世考古学研究会 1997 の中でまとめられているが、事例は増加しているものの、概要に変化はないものと思われる。以下、集成に示された陶磁器の組成関を抜粋・加筆したものを掲載する。

もう一つの特徴として、古代末以降の初期輸入陶磁といわれる越州窯や長沙窯の製品が比較的多く確認されていることである。これらの出土遺跡は、莊園管理施設など公的要素が見られる、地域の中では大規模な寺院と目される遺跡に多いことも挙げられる。これを 1 期以前の時期としてあげることができる。

〇期（9世紀～11世紀前葉）

石川県内では、現在 11 の遺跡で初期輸入陶磁（越州窯青磁、長沙窯）が確認されている。

※能登国分寺跡、寺家遺跡、千木ヤシキダ遺跡（金沢市）、戸水 C 遺跡（金沢市）、横江庄遺跡（白山市）、北安田北遺跡、三浦遺跡（白山市）、安養寺遺跡（白山市）、白江梯川遺跡、佐々木アサバタケ遺跡、淨水寺跡

I 期（11世紀中葉～12世紀中葉）田尻シンペイダン遺跡

ロクロ土師器（碗・有台椀・皿・小皿・柱状高台皿）

須恵器甕・常滑甕

白磁 碗・皿

II 期（12世紀後葉～13世紀中葉）

白磁 碗・皿・青白磁合子

ロクロ土師器（碗・小皿・柱状高台皿）・土師皿・土師器鍋

常滑甕・加賀（甕・鉢）・珠洲（甕・壺・鉢）・越前（甕・壺・鉢）

III 期（13世紀後葉～14世紀中葉）

青磁（碗・杯）・白磁皿

土師皿・土師器鍋

加賀（甕・壺・鉢）・珠洲（甕・壺・鉢）・越前（甕・壺・鉢）

筆者は、研究集会の準備のために、中世の陶磁器を今回ほぼ初めて扱うこととなった。この分野に詳しい方々に様々なご協力をいただいたにもかかわらず、かなり拙い報告となり、力量不足を痛感している。他地域の報告や討論で示された、最新の研究成果を基にした分類と統計の手法・分析方法などを今後の調査報告などに生かしていきたい。

【参考文献】

北陸中世考古学研究会 1991『城館遺跡出土の土器・陶磁器』

北陸中世考古学研究会 1992『中世前期の遺跡と土器・陶磁器・漆器』

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 1993『貿易陶磁—奈良・平安の中国陶磁—』由良大和古文化研究協会

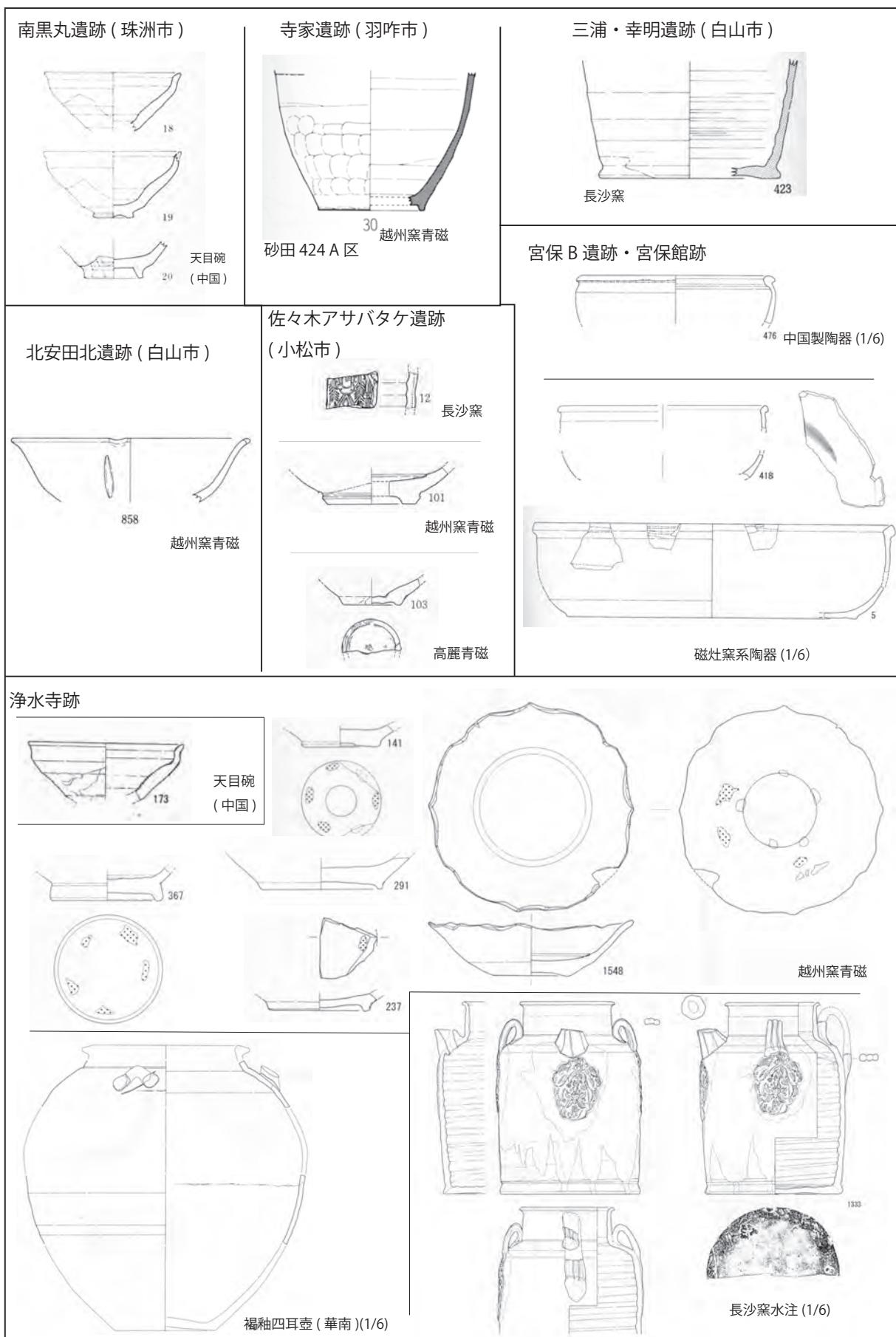
北陸中世考古学研究会 1997『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』

田嶋明人 1997「[5] 北陸」『国立歴史民俗博物館研究報告 71 中世食文化の基礎的研究』

北陸中世考古学研究会 2007『中世前期北陸のカワラケと輸入陶磁器・施釉陶器・瀬戸美濃製品』

亀井明徳 1986『日本貿易陶磁史の研究』同朋舎出版

中世土器研究会 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社



能登・南加賀の越州窯・長沙窯製品と青磁・白磁・青白磁以外の輸入陶磁器 (S=1/4)